

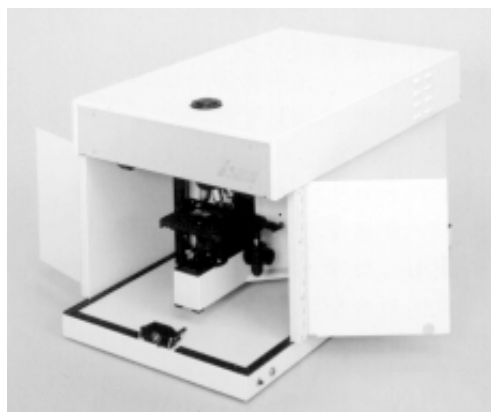
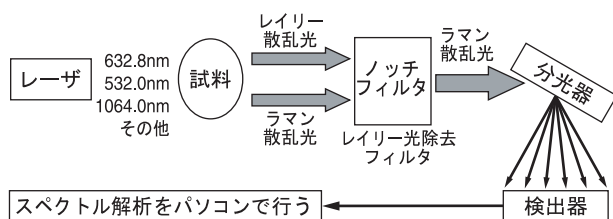
### 顕微レーザーラマン分光装置 LabRam シリーズ

半導体やダイヤモンド・ライク・カーボン(DLC)膜の評価をはじめ、フィルムの配向、生体高分子の二次構造の決定、新物質の構造解析などに用いられる装置です。測定原理として、物質にレーザー光を照射し、出てきた散乱光を測定するラマン分光法を採用。またさまざまな分析者のニーズを最優先に、最新の技術を導入し短時間で高感度な測定を可能にしています。

ラマン分光法の優れている点は、他の化合物分析法と比べてサンプルの準備が非常に簡単、短時間で高精度な測定が可能、といったことがあげられます。しかし、照射するレーザー光に比べて、ラマン散乱光の強度が非常に微弱なため、特に高性能な光学系が必要となります。LabRam シリーズは、光学関連技術に優れた実績をもつホリバグループのひとつであるジョバンイボン社(フランス)の光学系をベースにしており、これまでも世界中で幅広く利用されています。

ホリバが提供する LabRam シリーズは、短時間で高感度な測定を実現した顕微レーザーラマン分光装置です。光関連の設計者はもとより、さまざまな分析者のニーズに応えます。

#### 測定原理



#### 特長

(注: LabRam Infinity の場合)

1. コンフォーカルなポイントでのマッピングを可能に。
2. オペレータからレーザー光源を完全遮断した構造により、万全のレーザー光安全性を実現。
3. 可視から近赤外までの2波長レーザーを装着可能(442 ~ 785nm)。
4. レーザー照射およびグレーティングほか、全自動コンピュータ制御。
5. 独自の水平顕微鏡とマクロアタッチメントにより、液体サンプルセル、広面積分析、などの測定を可能に。
6. LabRam オプション転用可能。
7. ルーチン分析のための操作管理プログラム等オプション対応可能。

LabRam シリーズには、フルオートの LabRam Infinity (写真上)のほか、マニュアル操作の LabRam IB や LabRam HR-800 (写真下) もあります。

